

# 檜細工

## 歴史

檜細工の始まりは、約400年前、尾口村深瀬(現・白山市深瀬)を訪れた旅の僧が農民に檜笠の製法を伝授したこととされている。当時、村では人口が増加しているにもかかわらず、田畑にできる土地が少なく、檜笠作りは農民の貴重な副収入になったと伝えられている。

檜笠は江戸時代中期には農耕用などに広く使用され、村の重要な産物になっていた。昭和6年(1931)には檜笠購買組合(のちの檜笠工業協同組合)を設立して共同作業所を建て、檜笠の生産も年々増加し、アメリカ向けの輸出用の色帽子も生産するようになった。網代(あじろ)天井や、各種のカゴ、花立などの民芸品にも応用されるようになった。

## 特色

檜細工は、原料のヒノキを薄く細い経木にしたもの(ヒンナまたはヘギ)を編んで作る。ヒンナ作りは、機械化により大量生産が可能となったが、ヒンナを編む作業は今も手作業で、熟練を要するものである。

現在は、檜笠のほかに、ナタ入れ、おぼけ(背負いかご)、かご、屑入れ、花立などの製品が作られている。また、いろいろの模様を編み込んだ網代天井は、尾口村(現・白山市)の民俗資料館で見ることができ、金沢市や小松市内の寺の天井に使われているところがある。



# 檜細工

## 歴史與特色

檜細工大約始於400年前，據說是由遊經尾口村深瀬（現白山市深瀬）僧侶將檜笠的製作方法傳授給了當地的農民。在當時，編制檜笠成為村民們的重要的副業收入。

檜笠在江戸時代中期被廣泛利用於農耕等，並成為當地村莊裡重要的產品。

檜細工就是將原材料檜木削成又薄又細的木片後編制成物品的技術。

現在，除了檜笠之外，還編制如放砍刀的容器、背簍、簍筐、廢紙筐、插花筒等製品。在尾口村（現白山市）的民俗資料館中可以看到編有各種圖騰的網代天花板。另外，金澤市和小松市內的一部分寺廟的天花板也採用了檜細工。

### 情報 資訊

主な生産地(主要産地)	白山市(白山市)
主な製品名(主要産品名)	笠、おぼけ、かご、花器(斗笠、背簍、簍筐、插花用器皿)
主な生産者(主要生産者)	檜笠生産グループ(檜笠生産集團) 〒920-2152 白山市明光4丁目83(白山市明光4丁目83) TEL (076)273-1723